

## 所 長 挨拶

知識情報研究所  
所長 藤原 鎮 男

平成元年、平塚キャンパス開設の年に当たって本報告をお送りしうることは、研究所全員のひとしく喜びとするところである。学校法人神奈川大学知識情報研究所は以下に述べるごとく本年も活発な活動を展開し、社会に対する神奈川大学の学的寄与の責務を果たすことができた。このことは大学全体の支援と関係各位の協力、後援の賜であり、ここに深く感謝する次第である。

1986年、研究所が発足したときスタートした研究所の諸活動はほぼ4年を経た現時点で態勢が整い、国の内外に対してその地歩を確立し、具体的な成果を世に問いうるに至った。

すなわち、フォーラムは維持会員メンバーのほか企画ごとの臨時会員を加えると100名を越える参加を得る状況が定着し、大学と社会との間の学的交流の場をつくる当初の意図はほぼ確立された観がある。また、平成元年度よりは生涯教育、社会教育の場として2日ないし3日の日程により高等教育、研修をはかる目的で、学協会の協力、後援による研修フォーラムを「包装」（社団法人 日本包装技術協会後援）、「高分子分析」（社団法人 日本分析化学会共催）について行い、甚だ盛会裡に終了した。この企画は平成2年度以降も継続して行う予定である。

さらに、研究所発足当初より内外諸学者の協力により進めた科学技術用語に関する共同研究は、本年度、多分野共通多言語表現科学技術用語集の策定、日中表現多分野共通「化学」基本用語集を生むことができた。この事業は、地域的にも、また社会的にも多面的になりつつある現代においては基本用語の整備が根本的重要事であるとの認識によるものであり、幸い、多方面の有力な諸氏の協力により具体的な成果が得られたわけであり、感謝にたえない。

また、当研究所は実質的には神奈川大学理学部の教員諸氏をメンバーとするが、平塚キャンパスの語学関連の教員諸氏をも客員研究員としてメンバーに擁している。この利点により本年度は新たに科学教材ビデオの中に現れる用語の日英対訳集の作成のプロジェクトをスタートし、その最初の成果を得ることができた。ビデオ教材は近年甚だ整備されつつあるところである。それらは関係者の多大の努力と経費により作成されたものである。それ故、日本版で作成されたものが海外で利用されることは極めて望ましいことといわねばならない。我々は日本語版のビデオ教材が海外の人々にも利用されうるよう希望し、その一助としてこのプロジェクトを企画し

たものである。そのみでなく、我が国の学徒が海外において活動することは日常事となりつつある現代において、科学技術の用語が日本語、外国語（たとえば英語）でどのようになっているかを学習することは甚だ望ましいことであることを考え、本学の学生教育にも役立つ教材となることを願って、関係者の協力により作業を進めた次第である。

最後に、当研究所が現在鋭意努力しつつある共同研究「新安全学の科学技術の体系化」についてふれておきたい。科学技術が巨大化した現代社会にあっては、「安全」は人類の現在および将来を決定する根本要件である。「安全の科学技術」はいかにあるべきかを総合的に考え、対応をはかろうとするのが我々の意図であり、そのために共同研究の場として産官学の研究者の参加を求め、現在我々は共同研究を進めているところである。そこで我々は、すでに3回国際集会を開催し、前年度の研究所年報によって国際フォーラムの提出論文を紹介、報告した。平成元年度に引き続き行った国際フォーラムの報告の一部を本報告にも掲載する。この研究は現在さらに発展し、展開中である。

以上、平成元年度に当研究所が行った活動の一端を紹介し、今後の引き続きのお力添えを願う次第である。